

まちづくりって何？

皆さんにとって「まち」とはどのようなイメージでしょうか。そこに住む人にとって共通する願いは、便利で、居心地が良いということでしょう。「公共施設や商業施設が充実している」「地域のきずなが強い」など住み良いまちの感じ方はさまざまかもしれませんが、自分たちが住むまちを、自分たちでより良くつくりあげていくことができれば、「まち」に対する愛着も一層増すのではないのでしょうか。

例えば、公園などの公共施設が造られるときに地域住民の意見を計画や運営に取り入れるワークショップに参加したり、さまざまな市民活動を通じて地域の人たちとふれあったりすることで、地域の一員としての自覚と満足感が生まれるはずです。

市民活動を通じた

まちづくり

市民の活動といってもさまざまです。地域での活動としては、環境美化や防災、住民

の交流行事などを行っている町内会があります。区内六地区にある福祉のまち推進センターでは、ボランティアによって、高齢者の支援や子どもたちとの交流などの福祉活動が行われています。また、自然環境や福祉、文化などさまざまな分野で活動しているNPO（民間非営利団体）やボランティア団体もあります。

さまざまな活動をしている人たちが互いに協力することで、課題が解決し、まちに新たな魅力が生まれるのではないのでしょうか。市民活動はまちを支える大切な要素です。皆さんもできること、関心のあることから始めてみませんか。



厚別区では、区民の皆さんと魅力あるあつべつ町のまちをつくっていくため「あつべつ街づくりシンポジウム」みんなで語ろう、市民活動でつくる街（左ページ下段をご覧ください）を開催します。まちづくりについて一緒に考えてみませんか。

こんな活動をしています

「あつべつ街づくりシンポジウム」にパネリストとして参加する2団体の活動を紹介します



▲1月11日に平岡公園で行われた自然観察会では、スノーシュー(かんじき)を履いて森林内を探検しました。途中、ハイタカと思われる猛きん類がスズメを襲った跡がありました

「平岡どんぐりの森」 子どもの心と自然を育む

「身近な自然をもっと良く知り、大切にしたい」そんな思いから、厚別区や清田区に住むお母さんたちが集まって活動を始めました。子どもたちと一緒に自然を楽しもうと、平岡公園や東部緑地などで自然観察会を行っています。また、公園ボランティアとして、平岡公園の人工湿地の造成に携わっているほか、自然林の再生、貴重な動植物の移植や保護にも取り組んでいます。代表の荒井美和子さんは「私たちの住む地域には、まだまだ豊かな自然が残されています。参加者や子どもたちが、身近な自然を見直し、大切にすきつけかけになれば良いですね」と話してくれました。



▲8月3日に道立深川青年の家で行われた宿泊研修には、地元のボランティアも参加。夕食もみんなで力を合わせて作りまし

「女性学級あさがお」 人と人のふれあいを大切に

さまざまな体験を通して、障害児と健常児の親子の交流を図る活動をしています。学生ボランティアや各種団体なども参加し、昨年は、宿泊研修やぶどう狩り、ふれ愛コンサートなどを行いました。区内の小学一年生の母親の交流から始まった活動は、今年で十四年目。「何かをしてあげるのではなく、同じ目線にたち、自分たちができることをしているだけです」と話すのは、代表の野口良江さんです。障害のある子どもが、ぶどう狩りを体験して笑顔になったり、うまく包丁を使えたりなど新しい発見も多いそうです。体験や感動を共有することで人を思いやる心や、ふれあいの輪が広がっていきます。